

砂防関係施設の長寿命化対策【国土交通省】

施策概要

要対策施設等の対応及びライフサイクルコストの縮減につながる取組を推進するため、長寿命化計画に基づき砂防関係施設の修繕・改築等を実施

効果

老朽化した施設を更新することで、土砂災害による人的・物的被害の発生リスクを低減し、災害時の被害拡大を防止

全国的な対策と効果

砂防堰堤、急傾斜地崩壊防止施設、地すべり防止施設等の長寿命化を推進



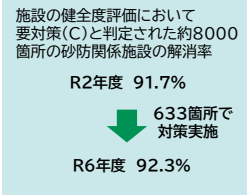
国の直轄事業化から約50年が経過し、砂防設備の老朽化や損傷が発生



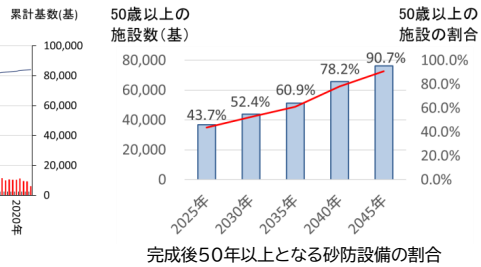
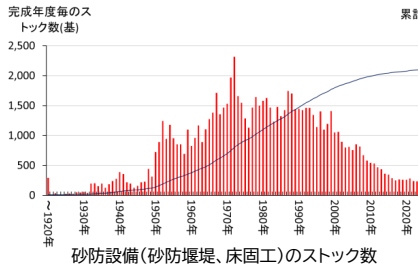
各設備の補修を行い、長寿命化を図ることで、土石流被害の防止に寄与



整備から約30年が経過し、対策施設の老朽化が進行



1970年代以降に作られた砂防設備が、順次完成から50年以上を迎え、20年後には50歳以上の施設の割合が、9割以上となる

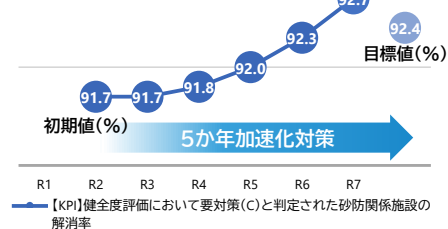


■ 予算額(国費)(加速化・深化分)

R3	R4	R5
119億円	99億円	154億円
R6	R7	累計
117億円	107億円	596億円

※ このほか、加速化・深化分以外の予算も措置されている

■ 目標達成の見通し



効果発揮事例

地すべりの原因となる地下水を排除する施設のメンテナンスにより、地すべり災害を防止する



国土交通省 北陸地方整備局
金沢河川国道事務所

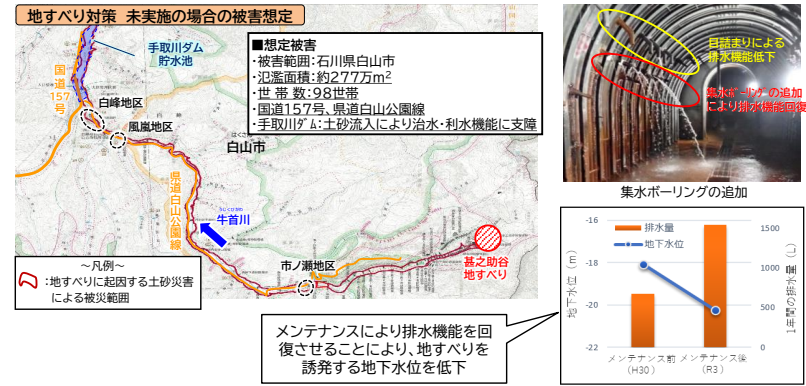


石川県白山市



基之助谷地区直轄地すべり対策事業

■ 地すべり対策による効果



■ 事業費

16億円(うち5か年加速化対策(加速化・深化分)2億円)

■ 事業の背景(地域の課題)

基之助谷地すべりは霊峰白山の西側斜面に位置する、日本最大級の地すべりです。当地区は、昭和9年には大規模な滑动が発生し、死者97名という甚大な被害をもたらしました。当地区では、現在も滑动が続いており、一度大規模な滑动が発生すると、河道閉塞の発生・決壊により下流域に位置する人家等が被災して人的被害が生じることや、手取川ダムへの土砂流入により治水・利水機能に支障が生じることが想定されるため、対策が必要でした。

■ 事業の内容

地下水は地すべりを引き起こす要因のひとつであることから、地すべり対策においては地下水排除工等を実施しています。地下水を排除するため地中に設置した集水ボーリング管は、時間経過とともに地すべり土塊の移動による切断や、沈殿物による目詰まりが発生し、排水効率の低下により施設効果が弱まるため、地すべり発生危険性が高まります。このような排水施設において、同じ排水トンネル内での集水ボーリングの追加、及び既設集水ボーリングの洗浄を実施しました。

■ 効果

